

1

学校名 (生徒数)	甲賀市立水口中学校 (782人)
--------------	------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：甲賀市水口町水口5900

電話番号：0748-62-4127

**【研究の目的、研究内容】****(1) 研究の主題**

「確かな学力の向上を目指すための『学びを育てる』取組について  
～自ら学ぶ生徒の育成を目指して（自尊感情の形成を土台として）～

**(2) 研究主題設定の理由**

昨年度は、「水中共通実践10項目」の内容を見直しそれを継承・発展した取組を行いたいと考え、小中連携した取組を行った。また、生徒の学習意欲をどのように高めていくか、ということについても大きなテーマであり、自尊感情が高まれば様々なことに意欲的に取り組むことができるとの基本的な考えにたち、あらゆる教育活動において生徒の自尊感情を形成する視点を重視した指導を行うこととした。本年度もその流れを継承し、昨年不十分であった点を課題として、発展させる取組を行った。

さらに、「学力向上アプローチ事業（理科）」との関連を図り、全国学力・学習状況調査における本校生徒の課題を克服するための授業改善の方向と連動させた取組を行った。

理科では昨年度の課題から、水中共通実践10項目の2-⑤「家庭学習(予習・復習)や次時につながる課題設定」の工夫と、「活用する能力」を育む授業展開、課題設定の工夫を行った。

**(3) 研究体制**

研究推進委員会（校長、教頭、教務、副教務、研究主任、研究助任〔理科〕、教科主任）を中心に校内研究を推進する。

本研究は、この委員会の助言のもと、研究助任、理科部会を中心に進める。

**(4) 1年間の主な取組の経過**

- ・ 4月22日（火） 全国学力・学習状況調査
- ・ 4月24日（木） 研究推進委員会  
研究主題の決定
- ・ 5月28日（水） 校内研究会・教科部会  
教科部会での研究内容の確認
- ・ 8月25日（月） 校内研究会・教科部会  
2学期以降の授業研究会の内容検討
- ・ 11月11日（火） 授業研究会  
2年理科「地球の大気と天気の変化」  
飽和水蒸気量曲線を実験を通して
- ・ 12月3日（水） 校内研究会・教科部会  
各教科授業研究会のまとめ
- ・ 3月予定 調査問題の実施、教科部会

**(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等**

①水中共通実践10項目の実践

下記の実践項目を全教科で、重点的に取り組む項目を決め、実践した。  
理科では、1④、2④・⑤に重点を置き実践した。

#### 1 「教職員全員で取り組む5つの共通実践」

- ①教師はチャイムの前に教室へ行きます。
- ②授業の始まりと終わりに気持ちよいあいさつをします。
- ③授業の中で発表の機会を多く持ちます。
- ④一人の発言を、学級全体に広げる機会を多く持ちます。
- ⑤1回の授業で5回以上生徒をほめます。

#### 2 「教職員全員で取り組む5つの授業スタイル」

- ①「本時のねらい」を明示する。・・・大きな文字でねらいを書く。
- ②ねらいに迫る中心発問や中心活動を明確化する。…学習のポイントを明確にする。
- ③ねらいに迫る発言・反応をひらう。…大事なポイントをすかさずほめる。
- ④生徒が表現したり発言する場面を意図的に設定する。…言語活動を充実する。
- ⑤家庭学習（予習・復習）や次時につながるまとめと課題を設定する。  
…家庭学習を継続させる。

#### ②家庭学習や次時につながるまとめと課題の設定

- a. 小單元ごとの小テストの設定とそれに対応した宿題の設定。
- b. 前時に実験の予想を行う。
- c. 考察時間の十分な確保。

#### ③活用する能力を育む工夫

- a. 知識を活用した問題作り。
- b. 法則を導く実験の工夫。
- c. 法則を活用し、結果を導く実験の工夫。

### 【研究成果と課題】

#### (1) 研究成果

- ①全校の取組として行ったが、1時間の授業展開をステップで示したり、「本時のねらい」の提示の仕方を生徒の活動の形で示している各教科の工夫を共有し、より教科にあったものに改善した。生徒も、何に取り組む、何を理解すればよいのか、その時間の大切な点を理解して取り組むことができた。
- ②小テストの設定により、家庭学習(復習)の内容が明確になり、生徒の取組状況も把握することができた。また、定期テストの基本的事項の正答率も上がっている。  
前時に実験の予想を行うことで、予想の時間を十分に確保できた。また、家庭学習(予想)の課題が明確になり、予想と反する結果になった場合の対応についても、考えさせることができた。  
予想を前時にすることで、実験後の考察の時間を十分にとることができた。また、実験の予習をしたことで、考察についても自分の言葉をつかって書いている者が増えた。
- ③昨年度は、考察の書き方指導を行ってきたが、今年度はさらに一歩進み、実験から分かった法則を利用して、確かめる実験を取り入れた。これにより、法則の理解が深まった。また、湿度や流れる電流の値を求める力をつけるため、法則を利用して解く小テストを生徒に作成させる時間をつくった。作成した問題は相互に解き、問題の不備を指摘し合うなどして、求めるためには何が必要なのか理解することができた。

#### (2) 課題等

- ①定期テストの基本事項の正答率については、平均6%の上昇であるが、小テストの効果と断定できるものではない。全国学力・学習状況調査の結果、家庭学習の時間が、県平均より低い本校の状況を少し改善した結果ということはある。ただ、自主的な取組ができている状況ではない。この点について工夫することが課題として残る。
- ②自分の言葉で、実験結果から考察できる者が増えてきたので、この授業展開ができるよう授業計画を立て時間確保する工夫が必要である。また、簡単な体験をさせ、自分の考えで予想する場面を設定していく必要がある。
- ③問題作成は、学び合い学習につながった。この経験を活かし、学び合い学習を設定していきたい。